

FURE 相双地域支援サテライトとは？

震災から1年あまりが経過した2012年6月、川内村に福島大学うつくしまふくしま未来支援センターのサテライトを設置、同年10月、駐在職員3名を配置することによりサテライトとしての活動をスタートしました。

その後、被災地域の避難指示が解除され住民の帰還が進むなかで活動拠点を順次移設、現在は福島大学のほか富岡町と浪江町にサテライトを設置し、被災12市町村を対象とした支援活動を行っています。

沿革

平成23年 4月	福島大学うつくしまふくしま未来支援センター設立
平成24年 6月	川内村に「いわき・双葉地域支援サテライト」開設
平成27年 8月	同サテライトを楡葉町に移転
平成28年 4月	「いわき・相双地域支援サテライト」を「相双地域支援サテライト」に改称
平成29年 5月	南相馬市に「南相馬分室」開設
令和2年 8月	楡葉町の同サテライトを富岡町に移転
令和3年 4月	川内分室、南相馬分室を閉鎖し浪江町にサテライトを新設。「富岡サテライト」「浪江サテライト」と改称

所在地

企画・連携担当

〒960-1296
福島県福島市金谷川1
(福島大学うつくしまふくしま未来支援センター内)



富岡サテライト

〒979-1192
福島県双葉郡富岡町大字本岡字王塚622-1
(富岡町役場内)

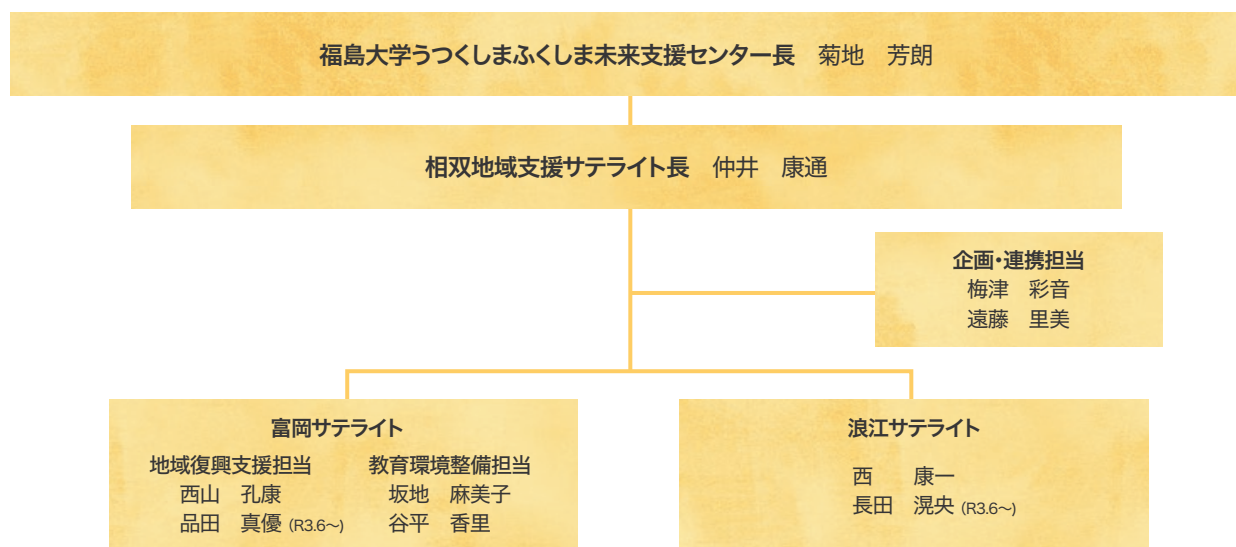


浪江サテライト

〒979-1592
福島県双葉郡浪江町大字幾世橋字六反田7番地2
(浪江町役場内)



組織図



2カ所のサテライトに職員が駐在し、大学のノウハウやそれぞれの社会経験を生かして支援活動に取り組んでまいります。
なお、新型コロナウイルス感染症が全国的に拡大している状況を踏まえ一部の活動を自粛しております。お電話によるご連絡の対応など、支障が生じる場合がございますが、どうぞご理解いただきますようお願い致します。



28

2021. 春の特別号

「相双の風」は、相双地域の今と、福島大学うつくしまふくしま未来支援センター相双地域支援サテライトの取組みを紹介するニュースレターです。
相双地域支援サテライトは被災地と福島大学をつなぐ現地拠点として、地域復興に向けた支援活動を行っています。

相双の風



誓いの言葉を述べる児童生徒代表

写真提供: 川内村教育委員会

TOPICS | トピックス

川内村立川内小中学園が開校

～育ててほしい! 「かえる力」を持つ子ども～

この4月、川内小学校・川内中学校がひとつとなり、義務教育学校「川内村立川内小中学園」が誕生しました。

川内小中学園では学校の勉強だけでなく、子どもたちには放課後子ども教室や「かわうち興学塾」を開講、大人には生涯学習やコミュニティ活動の場を提供します。村の「学び」をここに集約し、川内村復興の学び舎としての期待がされているのです。

村に馴染み深いカエルにちなみ、子どもたちはここで「かえる力」を身に着けます。この言葉には「変える」「振り返る」「立ち返る」「カエルのように前進する」力を持ってほしいとの意味が込められており、次世代をしなやかにたくましく生きる子どもたちの育成を目指しています。
新しい校旗のもと、震災10年を区切りとして出発した川内小中学園。開校式は4月5日、同校で行われました。



被災地域の復興に向け、一方的な支援ではなく、地域に根差した支援と一緒に取組んでいきたい！
地域の皆さんが主体となって取組みを進める中で、不足している部分をサポートしていくことが私たちサテライトの役割であると考えています。



01. 令和3年度実施予定の主な事業 被災市町村の課題解決支援

- 1 被災市町村が抱える課題の把握と集約
- 2 福島大学復興講座の開催
- 3 役場職員との意見交換会の開催
- 4 農業再生に向けた支援
- 5 県外に向けた被災地情報の発信
- 6 役場等との連携業務

PICK UP!

福島大学復興講座の開催

被災地域の役場職員等については、東日本大震災・原発事故による避難とその後の帰還を通してベテラン職員が多く退職したこともあり、現職員にかかる業務負担は大きく、日々の業務に追われているのが実情です。このため、地域経済、先端農業などをテーマに福島大学教員等を講師とする講座を開催します。



▲勉強会



▲田植の様子

PICK UP!

農業再生に向けた支援

農家へのヒヤリングを基に、現場と専門家とのつなぎ役としての活動と大学等の研究補助等を通して被災地域の農業再生に向けた取組みを支援しています。

今年度も、細やかな農家への聴き取りを通して現状を把握するとともに、福島大学食農学類との連携をさらに深め、営農再開に向けた取組みを支援していきます。

PICK UP!

県外に向けた被災地情報の発信

震災から10年が経過し被災地域の復興は徐々に進みつつありますが、その一方で、首都圏はじめ県外では記憶の風化が進んでいます。「福島から学ぶ地域防災」写真展等を県内外で開催することにより、被災地域の復興に向けての取組みや現状を広く発信します。



▲県外にて被災地の情報を発信

02. 令和3年度実施予定の主な事業 被災地の教育環境向上

- 1 被災市町村が抱える課題の把握と集約
- 2 教育環境整備に向けたワークショップの開催
- 3 福島大学キャンパスツアーの実施
- 4 保育職員等に対する指導支援

PICK UP!

教育環境整備に向けたワークショップの開催

サテライトでは平成28年度より被災市町村の子どもたちを対象に、科学実験教室や体力向上を目指した身体表現のワークショップを開催してきました。

今年度も、これらのワークショップを開催することにより、子どもたちにものをつくる楽しさ・学ぶことの楽しさを知ってほしいと思っています。

＜実施例＞

- 総合学習(食と農)
- LEDワークショップ
- 時計組立教室
- 発達段階に即した運動遊びの講義と実践



PICK UP!

福島大学キャンパスツアーの実施

被災地域では、地域に高校や大学が少なく、将来の進路選択やキャリアをイメージできない子どもたちが多くいます。中学生を対象に、キャンパスツアー(大学構内探索、教授による模擬授業、現役学生との交流など)を開催します。



▲理科実験



▲キャンパスツアーの様子

03. 令和3年度実施予定の主な事業 情報発信

- 1 サテライト広報誌の発行
- 2 関係市町村等外部への情報提供
- 3 相双地域支援サテライト活動報告会の開催

PICK UP!

サテライト広報誌の発行

被災地域全体を見ると、帰還を開始して間もない町村、これから帰還を開始する町村もあれば、早期に帰還して将来のまちづくりについて考えるフェーズに入っている町村もあります。

今年度も引き続きサテライト広報誌「相双の風」を発行し、各町村での取組みなどをお知らせいたします。

PICK UP!

関係市町村等外部への情報提供

展示会への出展、ホームページによる情報提供などを通して、サテライトの取組みを外部に発信します。また、被災地域の今を伝える地図「ぐるぐるマップ」を引き続き発行します。